



「戦争と医の倫理」の検証を

—奈良・山本病院事件の本質—

来春の第28回日本医学会総会(東京)へ向けて

山口 研一郎 現代医療を考える会代表、医師

診療報酬不正受給に端を発した奈良県・山本病院事件(医師の山本前理事長は2010年1月13日詐欺罪で実刑判決を受け、控訴中)は、2月に入り、良性の肝腫瘍を「肝臓がん」として摘出術を行い患者を死亡させた「業務上過失致死事件」に発展している。

病院経営のための不要な検査・治療・手術の実施、患者への虚偽病名の告知、経験のないスタッフによる手術の断行、輸血の準備を怠るなどの不十分な態勢、大量出血後の手術の放棄など、様々な問題点が指摘されている。

確かに同事件には、一般の臨床場面では考えられない特殊な状況が存在している。関係した医師らの責任が問われるのは当然のことであろう。

一方、2月6日付の朝日新聞は、岡山県の女性(73)が県内の公立病院において「病気腎移植」の目的で腎臓を摘出された事実を報じている。「腎臓がん」との病名で手術が行われたが、既に手術前に良性との判断がなされていた。山本病院事件と似通っているが、「透析患者に移植するための摘出」として、担当医は免罪されたのであろうか。

奈良や岡山の「事件」の本質は何か。そこに横たわるのは「生活保護患者」や高齢患者といった「弱い立場の人」の人権の軽視であり、人の身体をモノとしかみない考え方である。

かつて戦時中に生じた「医学犯罪」においては、人をモノとして扱う考え方が徹底して貫かれ、中国人をはじめとする多くの民衆が、幾多の「医学実験」の犠牲となった。今日の医療界は過去の「犯罪」を十分に反省できたのであろうか。医療倫理に関する医学教育は徹底されているのであろうか。

私共は2007年4月、第27回日本医学会総会(大阪)と期を一にして、「戦争と医学」と題するパネル展、シンポジウムを開催した。その一環として、全国の大学医学部(医科大学)に対し「医の倫理」に関するアンケートを行ったところ、「七三一部隊」などの細菌戦部隊について教えられていたのは1割に満たなかった(詳しくは、本会報2009年7月号の5ページ参照)。

日本医師会は戦争中の医学犯罪について、その事実を正式に認めていない。そのことが、全国の大学への医学教育に関する調査結果にあらわれていると言えよう。その結果日常診療においても、患者を対象に十分なインフォームド・コンセント(IC)もないまま実験的な医療が行なわれることが多い。今回の山本病院を氷山の一角とする患者の人権・人命を無視した「医療行為」は、いまだ医学界にはびこる旧弊として受け止める必要がある。

現在の臨床分野においては、「予防医療」の名の下に手術を含む様々な治療が公然となされている(山本病院で行われたカテーテル手術も狭心症や心筋梗塞の「予防」を名目とした)。また、本年7月より施行される「臓器移植法」により「脳死＝人の死」と定められ、乳児や幼児に至るまですべての人々が臓器摘出の対象になるなど、ますます医師に人々の身体や命に関する多大な権限が認められようとしている。そこで不可欠なのは厳しい医療倫理である。それがなければ、人の体にメスを入れることは、医師の行為といえども殺人や傷害以外の何ものでもない。

このたびの山本病院事件を、個人の特異な行為としてのみ扱うことはできない。現在の医療界・医学教育のあり方が今のままでは、現在厚労省で進められている、日常診療において医療事故が発生した際に開かれる「医療事故調査委員会」の設置も絵に描いた餅に過ぎない。ましてや、「医療崩壊」を防ぐ手立てとして期待される今春よりの医学部定員の増加も、医師の数が増えるのみで新たな矛盾を生じかねない。

私共は現在、全国の医師団体の一つである全国保険医団体連合会を中心に、2011年4月の第28回日本医学会総会(東京)へ向けて、「戦争と医の倫理」のシンポジウム・パネル展の開催を総会事務局へ要請している。かつてドイツ(ベルリン)医師会は、1980年のベルリン保健大会を契機にナチスの「医学犯罪」について徹底した克服の作業を行い、ついに1988年全国医師会議において『人間の価値』の刊行とシンポジウムを開催した(クリスチャン・プロス/ゲッツ・アリ編、林功三訳『人間の価値—1918年から1945年までのドイツの医学』風行社、1993年参照)。

日本医師会においても同様な歴史の掘り起こしが不可欠である。既に医学犯罪に関与した医師の多くはこの世の人ではなく、大学の研究室や各地の研究所に散在していた標本や資料も廃棄されつつある。このまま時が経てば、過去の事実が幻になってしまう可能性が高い。それをくい止めるための掘り起こし作業の一環として、現在防衛省への七三一部隊などに関する資料公開の要請も始めている。

日本の医学界が、過去の医療(学)の過ちを探り、真に反省し、未来に向かう姿勢を示さない限り、第二、第三の山本病院事件は生じる可能性が高い。

総会事務局は以上のような要請について、現段階では否定的な姿勢を崩していない。実現にはマスメディアを含めた様々な世論の応援が必要である。

関西スクエア会員の方々のご理解・ご助言をぜひよろしくお願いします。(やまぐち・けんいちろう)